

日本災害看護学会JSDN / 第50号 2025年 12月 25日

【事務局】日本災害看護学会事務局（株式会社ガリレオ学会業務情報化センター）

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1-4F TEL.03-5981-9824 FAX.03-5981-9852

http://www.jsdn.gr.jp/ e-mail : g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp

### 第11期 新理事長 ご挨拶

理事長 増野 園恵



このたび、日本災害看護学会第11期理事長を拝命いたしました増野園恵です。これまで学会活動を支えてこられた会員の皆さまに、まず心より御礼申し上げます。

本学会は、災害の経験から学びを積み重ね、看護の専門性をもって社会に貢献してきました。その歩みは、研究成果だけでなく、現場での実践、教育、人と人とのつながりによって支えられてきたものだと感じています。

現在、災害は決して「非日常」ではなくなりつつあります。気候変動の影響による豪雨や猛暑、各地で繰り返される水害、そして将来が危惧される大規模地震など、看護職が果たすべき役割は平時から災害時まで連続的に広がっています。こうした時代だからこそ、災害看護を専門とする本学会が果たす意味は大きいと考えています。

第11期では、研究と実践の知を共有し、地域で活動する看護職を支えるとともに、若手・学生会員が主体的に学び、挑戦できる学会づくりを大切にしたいと考えています。また、他分野や海外との交流を通じ、新たな視点を学会活動に取り込んでいきたいと思ひます。

本学会は、会員一人ひとりの参加によって成り立つ学びの共同体です。ぜひ、研究、実践、教育、交流の場として積極的に関わっていただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 第28回年次大会長 ご挨拶

大会長 佐々木 久美子



この度、日本災害看護学会第28回年次大会の大会長を務めさせていただきます、日本赤十字東北看護大学の佐々木久美子と申します。令和8年10月3日（土）、4日（日）の両日、日本災害看護学会第28回年次大会を、『生きるを支える』ネットワークと地域力の

醸成」をテーマに、秋田市「あきた芸術劇場ミルハス／文化創造館」において開催いたします。

東日本大震災当時、私は被災地に所在する大学に勤務

し、学生・教職員に加え、被災地域の看護職や福祉職の方々と協働しながら、中長期にわたる被災地支援に携わってまいりました。こうした経験を通じて、人びとが再び自らの力で歩み出すためには、住民・行政・支援団体が相互に支え合い、地域の力を結集して「生きる」を支える関係性を築くことの重要性を強く認識するに至りました。

近年、地震や豪雨などの自然災害が全国各地で頻発しており、災害関連死が深刻な社会的課題として顕在化しています。避難所や仮設住宅での生活が人びとの健康に及ぼす影響は大きく、「災害関連死を起こさない支援の在り方」を検討し、実践に結びつけていくことは、今まさに喫緊の課題といえます。

本大会では、被災者一人ひとりの「生きる」を支えるために、看護職をはじめ、医療・福祉・行政・地域組織など多職種・多分野が連携し、どのようにネットワークを形成し、協働していくことができるのかを、参加者の皆様と共に考える場としたいと考えております。

秋田県での開催は本学会として初めてであり、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 第27回年次大会を終えて

大会長 長田 恵子

2025年9月6日・7日の2日間、一般社団法人日本災害看護学会第27回年次大会を、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催いたしました。東京開催は10年ぶりとなり、阪神・淡路大震災から30年という節目の年、さらに首都直下地震への備えが進められている社会状況の中で、災害看護の意義と役割を改めて問い直す貴重な機会となりました。1,100名を超える皆様にご参加いただき、心より御礼申し上げます。

本大会では「災害における看護の汎用性」をテーマに掲げ、改善性・多目的性・拡張性・柔軟性・利便性の視点から、3つの特別講演、3つの教育講演、4つのシンポジウム、市民公開講座を構成しました。さらに、一般演題45題、示説演題39題、交流集会・ワークショップ、学会企画、企業協賛セミナーなど、多彩な発表と活発な意見交換が行われ、災害看護の実践と研究の深化を実感する2日間となりました。

学会後のアンケートからは全体として高い満足度をご提示いただき、大変ありがたく存じます。最後に、指定演者・座長の皆様、参加者ならびに関係各位、協賛・共催企業の皆様、そして大会運営にご尽力いただいたすべての皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

## 市民公開講座 「江戸ー東京の防災のまちづくり」開催報告

第10期社会貢献・広報委員会 委員長 立垣 祐子

2025年9月7日、第27回年次大会において、市民公開講座「江戸ー東京の防災のまちづくり」を開催いたしました。当日は約70名の参加があり、東京における防災の歴史について学ぶ貴重な機会となりました。これまで市民公開講座は、学会の企画として継続してまいりましたが、今回は第27回年次大会との共催という新たなかたちで開催することができました。

江戸消防記念会事務局長 元東京消防庁警防部の須藤晃二先生には、地下鉄サリン事件や阪神・淡路大震災など、数々の災害現場で消防の立場から指揮を執られてきたご経験をふまえ、災害対応の歴史について貴重なお話をいただきました。

歴史的な観点からは、延焼を防ぐために建物を意図的に破壊する「破壊消防」など、都市防災に関する当時の知恵や工夫も紹介されました。こうした歴史的知見は、現代の防災とは手法こそ異なるものの、都市の脆弱性への向き合い方や住民の役割意識といった点において示唆に富み、大変興味深いものでした。

開催地である東京では、首都直下地震の発生が懸念されています。自助・互助・共助・公助を有機的に組み合わせ、誰もが災害時の“活動者”として備えることの重要性を改めて認識しました。

当日はまた、警視庁のシンボลมスコット「ピーポくん」も来場し、会場を和やかな雰囲気にしてくれました。ここに改めて、須藤先生、そしてピーポくんに心より御礼申し上げます。



## 新年度の役員構成

新体制では以下の体制で取り組んで参ります。よろしくお願い致します。

委 員 会	構 成 員
編集委員会	加古まゆみ、三橋睦子、牛尾裕子、竹本由香里、黒瀧安紀子、山村奈津子、高田洋介
組織会員委員会	内木美恵、大野かおり、鈴木美和、織方愛、金丸道太郎
ネットワーク活動委員会	西上あゆみ、小林賢吾、北村千草、野島敬祐、小寺直美、池端優樹、畠山典子
社会貢献・広報委員会	神原咲子、宮本純子、立垣祐子、畠山典子、内田彩香、岡崎敦子、川野和也、花井理紗
災害看護教育活動委員会	酒井彰久、佐藤大介、寺田英子、野原正美
まちの減災ナース指導者育成委員会	齋藤正子、小原真理子、網木政江、上野里美、金谷雅代
認証制度委員会	松岡千代、勝沼志保里、網木政江、齋藤正子、湯井恵美子
国際交流委員会	神原咲子、藤井愛海、原田奈穂子、中島麻紀、シュレスト・ジョシ・アルチャナ、池本めぐみ
募金活動委員会	藤田さやか、増野園恵、西上あゆみ、宮前繁
災害看護学術用語委員会	三橋睦子、菅原美樹、山下留理子
若手アカデミー委員会	宮前繁、三浦英恵、田中加苗、村田美穂、中澤弘子
災害看護倫理検討委員会	今津陽子、金谷雅代、中信利恵子、松尾香織、濱館陽子
COI マネジメント委員会	松岡千代、佐々木吉子、朝熊裕美
災害看護の質向上委員会	酒井彰久、内木美恵、山崎加代子、松山真実、齋藤結香
総務会	増野園恵、西上あゆみ、藤田さやか、勝沼志保里、宮前繁

## 2026年 世界災害看護学会 (WSDN) 第9回学術集会はマレーシア・クチンで開催!

国際交流委員長 神原 咲子

神戸大会“Rethinking Disaster Nursing in the Changing Risk Landscape-Primary Health Care to Social Innovation for Planetary Health-”を終えてから2年。次回、第9回世界災害看護学会学術集会(WSDN2026)が、マレーシア・サラワク州クチンで開催されます。2008年設立のWSDNは、2009年神戸での初開催以来、世界各地で災害看護の発展を議論し、実践・研究・教育の知見を共有してきました。SDGs終了まで残り5年を前に、災害看護の未来と進むべき道を深く議論する場になりそうです。

<重要日程(マレーシア時間/GMT+8)>

アブストラクト締切: 2026年3月31日(23:59)

採択通知: 2026年4月30日

発表者登録締切: 2026年5月30日

募集演題サブテーマ: Innovation & Technology in Disaster Resilience / Public Health / Infectious Diseases / Chemical, Biological, Radiological, Nuclear and High-

## 編集後記

12月8日に発生した青森県東方沖の地震により被害を受けた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。今号では、9月から新体制となりましたので新理事長および役員構成、今年9月に開催された第27回年次大会長からのご挨拶、同大会での市民公開講座開催報告、来年開催の第28回年次大会長からのご挨拶、第9回世界災害看護学会(WSDN)のご案内を掲載いたしました。今年は阪神淡路大震災後30年、戦後80年の節目の年であり、改めて平和を守ることにより自身がどのように貢献できるかを考えさせられる年となりました。自然災害、紛争・戦争などにより日々の生活と命が今も脅かされている人々がいます。健康は平和の礎であり、健康と生活を守る看護職としての役割を果たしていきたいと思っています。本ニューズレターでは、引き続き皆さまの活動をサポートできる情報を発信して参ります。

(社会貢献・広報委員会 委員 宮本 純子)